

2015.9.2

◎来年度開講「戦後ジュエリー史ゼミ」、その概要

ー露木 宏

すでにお知らせのように、ジュエリー文化史研究会では4年目を迎える来年6月頃から、これまでのゼミに加え、新たに「戦後ジュエリー史ゼミ」を開講します。そのための準備会も始まりました。

このゼミはモノを中心に露木が解説するこれまでのハンドリングゼミとは違う性格のゼミで、参加者全員による共同ゼミをイメージしています。露木または他の委員がレポートし、それを参考に、参加する方々が、それぞれ戦後史の重要テーマ、あるいは個人的に興味のあるテーマについて、認識を深めていくという共同学習・研究スタイルのゼミです。

(2年目以降は、参加メンバーによるレポートも積極的に取り入れていきます)ゼミがスタートし、研究テーマがある程度まとまった段階では、研究レポートを冊子としてまとめることも考えています。この時代を理解するためのオリジナル「年表」はぜひ作りたと思います。

どんなテーマを選ぶのか、ゼミはどのように進めたらいいのかを検討するのが準備会で、メンバーはとりあえず、座長 露木宏、委員 戸倉博之、宮坂敦子、山岸昇司、鈴木はる美<アドバイザー>(敬称略・順不同)とさせていただきます。

このテーマ、この出来事はぜひ取り上げてほしいということなどありましたら、露木または他の4人の委員に要望を出して下さい。準備会の中でそれらの意見を集約してまいります。

今年は戦後70年。1990年初頭には世界第2位まで成長した日本のジュエリー界も今は低迷気味。混沌として先が見えにくい状況ですが、現在の様々な課題や問題点も、その元はといえば、すべてこの70年の歴史の中にあります。しかし、忘れ去られたこと、今だに何だかよくわからないことも多いジュエリーの70年です。それらを、多角的な視点からスッキリさせ、確かな歴史認識の上に立ってジュエリーのこれからを考えていければと思います。

取り上げるテーマは、例えば（思いつくままに挙げると）－

- ・戦後占領期のジュエリー・アクセサリーとはどんなものか。
- ・戦後の甲府はどんな状態だったか。
- ・宝石の街、御徒町の始まりは。
- ・戦後の耳飾り文化の始まりは。
- ・戦後の和装装身具の展開。
- ・ジュエリーのデザインはどう変遷してきたのか。
- ・ジュエリー制作技術はどう変遷してきたか
- ・指輪の変遷－角爪（かくづめ）、千本透かしからデラ粹へ
- ・日本式誕生石（ヒスイ、サンゴ）の始まり。
- ・戦後、サンゴの価値はなぜ下がったか。
- ・商品の売り方は時代によってどう変わってきたのか。
- ・技能検定が始まったころ。
- ・結婚指輪が真珠だったころ。
- ・ダイヤのグレーディング（品質評価）の始まりはいつからか。
- ・大蔵省放出ダイヤのなぞ（戦前～戦後）。
- ・アコヤ真珠の盛衰史。
- ・「歪んだピラミッド」騒動とは何だったのか。
- ・ジュエリーはどうファッションとかかわってきたのか。
- ・モダンジュエリーの運動はいつごろ、なぜはじまったのか。
- ・アクセサリー教室が彫金教室と呼ばれたわけ。
- ・海外ブランド第一号、ティファニーの上陸。
- ・ジュエリーコーディネーター前史。
- ・コンテンポラリージュエリーとは。
- ・アンティークジュエリー、その日本での始まり。
- ・ヒーリングストーン、流行の社会的背景は。

その他－

- ・ジュエリーの戦後史のキーパーソンは・・・等々。

学習、研究、解明に値するテーマはそれこそいくらでもあります。

大きなテーマだけではなく、見落とされがちな小さなテーマも重視し、取り上げたいと思います。

（研究の参考になる書籍や文献は随時案内していきます）

時にはキチンと、また時にはワイワイガヤガヤと懇談会風に、

楽しく意味のあるゼミに育てたいと思います。

このゼミの中から、戦後ジュエリー史についての的確な発信をできる人が育ってくれればと考えています。

皆様のご協力で何とか成功させたいと思っていますので、よろしくお願いします。

とはいっても、いきなり個々のテーマに入るのはハードルが高いという方もいると思います。そこで、最初の2回くらいは以下の基本的な文献と一緒に読み込むところからスタートしたいと思います。

戦後ジュエリーの大まかな流れを理解するための基本文献

(1)露木宏編『日本装身具史』(美術出版社)の第VIII章

「戦後—平成から現代」

レポート：露木宏

(2)山口遼著『宝飾品市場—その知られざる世界』(日本経済新聞社)

レポート：戸倉博之、宮坂敦子、山岸昇司

開講日、参加条件、参加費など—

いろいろ準備が必要なので、開講は2016年6月頃、募集開始は2016年1月頃を予定。

(現会員の方を対象に先行受付もします)

原則年4回開催。土曜日2:30～、3時間ぐらい。

(2年度目以降はもう少し開催日数を増やすかもしれません)

1回参加費2,500円(年単位で納入)で、必要に応じてゲスト講師によるゼミも考えます。

席に余裕がある場合に限り、その回だけの参加も可としたいと思います。

1グループ(委員含めて20名前後)のみの開講です。

新規の会員も多少募ります。

資料がいろいろ必要なので参加者はジュエリーライブラリー会員であることが条件となります。

年間3回程度の参加が見込める方が対象となります。

期間は特に定めません。一定程度の参加者がいれば続けていく方針です。

※とりあえず、以上のような形で進めたいと思いますが、進行具合等を見て修正する場合があります。

ジュエリー文化史研究会

<http://www.j-bunka.jp/>

※このメールアドレス(j-bunka@jj-craft.com)には返信できません。

※返信の必要のある方は、以下のアドレスにメールを送ってください。

日本宝飾クラフト学院 info@jj-craft.com

幹事戸倉博之 spina@precious-chroma